

## 大腸癌の転移性肝癌に対して手術を受けた 患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に対するご協力をお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター外科では、上記の病気で受診された方の診療情報（カルテ情報）を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはありません。

**本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。**

### 【研究課題名】

大腸癌の転移性肝癌に対する術後化学療法の有効性に関する研究

### 【研究の背景と目的】

一般的に大腸癌の転移性肝癌に対する治療は手術が最良とされていますが、術後の再発率が依然高いことが問題視されています。そのため、国内外の大腸癌ガイドラインでは大腸癌の転移性肝癌切除後に補助化学療法を実施することを推奨していますが、具体的な投与方法や効果については、はっきりしたデータがないのが現状です。

当外科でも再発予防を目的とした術後補助化学療法を行っており、今回の研究では、大腸癌の転移性肝癌切除後に補助化学療法を「受けた患者さん」と「受けなかった患者さん」に分けて、診療情報（カルテ情報）を調査することにより、再発率や全生存期間の違いについて検討します。

### 【対象となる方】

2019年1月1日から2024年12月31日の間に当科外科において、大腸癌の転移性肝癌に対し手術を受けた患者さん

### 【使用する診療情報】

診療情報から以下の情報を収集します。

- 1) 患者さんの背景：生年月、性別、術前検査の結果、術前化学療法の治療内容や副作用、原発巣の手術の情報
- 2) 転移巣の手術の情報：手術日、術式、手術時間、出血量、合併症、術後病理検査結果
- 3) 手術後化学療法：施行の有無、治療内容、施行コース数、完遂の有無、有害事象の有無
- 4) 手術後5年間の3か月毎の経過：合併症の有無、術後補助化学療法の有無と治療内容、実施期間、完遂有無、有害事象有無、術後再発の有無、全生存期間。

## 【研究期間と参加予定人数】

この研究は当院臨床研究倫理審査委員会承認後、病院長許可日（2023年8月24日）から2029年12月31日まで実施され、全50名の患者さんにご協力いただく予定です。

## 【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。また、使用した検体やカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

## 【結果の公表】

この研究の研究成果は今後関連学会・雑誌に発表予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

## 【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 外科 奥山 隆 (PHS1323)

## 【問い合わせ先】

獨協医科大学埼玉医療センター 外科 担当者：宮崎 俊哉（助教） (PHS1315)  
埼玉県越谷市南越谷2-1-50 電話番号：048-965-1130（医局直通） 9:00～17:00（平日）

以上